

# 評価報告概要表

## ■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成25年2月15日（金）

## ■福祉サービス事業者情報

名 称	乳児院 なかべ学院	種 別	乳児院
代表者氏名	施設長 秋枝研二	開設年月日	昭和26年4月1日
設置者	社会福祉法人 中部少年学院	定員(利用人数)	48名(29名)
所在地	〒750-0081 下関市彦島角倉町3丁目6番17号		
電話番号	083-266-6515	FAX番号	083-266-8384
ホームページアドレス			

## ■総 評

### 全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

#### ◇特に評価の高い点

- 1 人事管理については、業務上及び健康福利厚生等に関して、職員に対する相談体制が確立されています。
- 2 事故防止と安全対策については、立地状況も踏まえ、常日頃から、十分な配慮や対策、訓練がされています。
- 3 食生活については、栄養管理や美味しく楽しく食べる工夫がされています。
- 4 子どもの尊重・最善の利益に十分配慮されています。

#### ◇改善を求められる点

- 1 中・長期計画については、運営理念と一体のものでありますから、策定されることを期待します。  
記述が難しい事項・内容については、記述方法の工夫により、例えば長期構想、長期計画、短期計画などと濃淡・精粗を使い分け、年次進行に伴い、次第に具体化を図る努力を望みます。
- 2 人事考課については、人事管理の一環ですから実施されることを期待します。  
業務執行の効率化と人材の活用を適切に行なうには、そのベースに人事考課が不可欠であると考えます。  
人事考課の方法・内容等については、施設の状況に合ったものとなるよう、工夫されるとよいと考えます。
- 3 外部監査については、法人の公共性に鑑みれば、導入の仕方・方法・程度等も含めて、前向きに検討されることを期待します。
- 4 地域の関係機関との連携や、施設が有する機能をより理解し、協力してもらうための交流として、積極的にボランティアを受け入れることの検討をされることを期待します。

## ■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

目先のことに追われる日々を過ごしがちな私たちにとって、第三者評価は現実を客観的にとらえて頂く機会として、大変意義あるものと考えます。

ご指摘いただいた数々の課題を常に念頭に置き、一步ずつでも前進して参りたいと思います。

特に、人事考課については、これまでファミリーのような雰囲気職員が協力し合い運営してきましたので、かなりの困難さを感じますが、良き伝統は残しながらも、プロの集団としてのノウハウを身に付けていけるような仕組みを考えていきたいと思ひます。

# 評価報告概要表

## ■評価項目別の評価結果(特記事項)

<b>1 養育・支援</b>	a	3	b	17	c	0	Na	0
<p>特別な支援が必要とされる子どもたちには別棟に居室が用意されており、十分な対応がなされている。</p> <p>発達障害のある子どもには、安心感のあるスペース環境が整えられており、少人数でしっかり関わることで、子どもの発達段階の把握に努めて、ゆったりと援助活動がされている。また、月齢に応じた遊びや使用する遊び道具の色や形、音響にも工夫が見られ、好奇心をそそることで、自分の世界がひろがっていく援助がされている。</p>								
<b>2 家族への支援</b>	a	0	b	3	c	0	Na	0
<p>面会時や帰省、一時帰宅の時に保護者との信頼関係の構築を再確認している。</p> <p>外出記録や面会記録により、家族や保護者の動向を把握することができる。さらに、家庭支援相談員(乳児部長)を中心に保護者の相談に積極的に応じ、状況に応じては臨床心理士が、家族の不安や抱えている心理的な課題を受容し、寄り添い、親子関係の再構築へ具体的な方向性を示せるよう、担当保育士とともにプランニングしている。</p>								
<b>3 自立支援計画、記録</b>	a	0	b	6	c	0	Na	0
<p>子どもの日常活動や保護者等との援助の記録は、書面に記録しており、月1回の職員会議では、記録を回覧している。</p> <p>職員には、マニュアルにより守秘義務の厳守を周知しており、個人的な情報の管理が整っている。引き継ぎや申し送りは、回覧により、事務所で確認できるようにしている。また、引き継ぎ簿を作成し、正確な情報の共有化に努めており、各クラスにおいても主任が再確認を指示し、職員全員に守秘義務の厳守を周知している。</p>								
<b>4 権利擁護</b>	a	5	b	7	c	0	Na	0
<p>子どもも職員も1日楽しく過ごせたかどうか、楽しく過ごすためにどのように関わってきたのか、「すまいるチェック表」に照らし合わせて確認している。これにより、職員間での援助に対する姿勢を向上させている。</p> <p>保護者等が意見を述べやすいようなスペースが用意され、家庭支援相談員(乳児部長)が窓口として対応している。相談内容は、職員に文書化して援助会議及び職員会議にて報告されている。</p>								
<b>5 事故防止と安全対策</b>	a	1	b	2	c	0	Na	0
<p>事故発生時のマニュアルや衛生管理マニュアルを作成し、職員に周知するとともに、年1回点検・見直しの担当職員を定めている。職員が気付いた箇所はその都度対応し、遊具の点検をはじめ安全確保、事故防止に対する取組を組織的、継続的に実施している。施設の立地状況を踏まえ、災害の影響や建物の倒壊、火災を想定し、月1回は施設独自、もう1回は隣接の児童養護施設と合同で防災訓練を実施している。</p>								
<b>6 関係機関連携・地域支援</b>	a	1	b	5	c	0	Na	1
<p>施設内に併設している児童家庭支援センター「紙風船」の職員が、月1回児童相談所の会議や、下関市の要保護児童対策地域協議会に参加している。</p> <p>法人の年4回ある大きな行事に子ども達が招かれたり、地域の方々に、施設や子ども達に関心を持ち、理解をもらうために、夏祭りなどの地域行事に継続的に参加している。地域の子育て支援の機能を果たすため、ショートステイや育児支援・育児相談等専門の対応をしている。</p>								
<b>7 職員の資質向上</b>	a	0	b	4	c	0	Na	0
<p>職員の研修計画が策定されており、職員一人ひとりの就業年数を考慮して、継続的・計画的に研修に参加させている。参加した後は、復命書やレポートを、職員会議で報告し、情報の共有化と援助技術の向上に役立っている。さらに、乳児部長によるスーパーバイザーの体制が確立しており、援助技術の向上のため相談できる、風通しの良い職場環境と、施設で培ってきた援助技術の伝統を先輩から後輩へ受け継いでいく雰囲気がある。</p>								
<b>8 施設の運営</b>	a	4	b	17	c	5	Na	0
<p>月1回の援助会議、職員会議を定期的で開催しており、欠席した職員には文書により情報を回覧し、情報の共有、周知を図っている。また県内唯一の施設であるため、福岡県と山口県との協議において、入所にいたった事例もある。当該施設が包含する地域の子どもの状況について、関係協議機関と連携して、ニーズの変化に対応できるよう情報の収集に努めている。</p>								